

経営比較分析表（令和2年度決算）

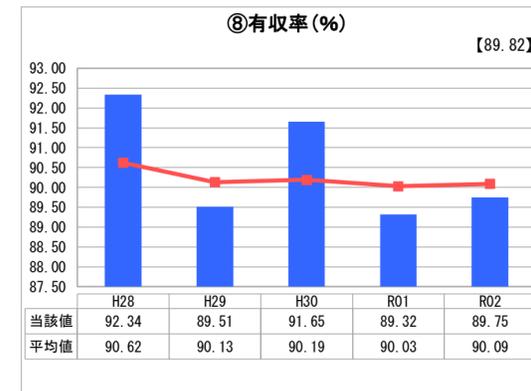
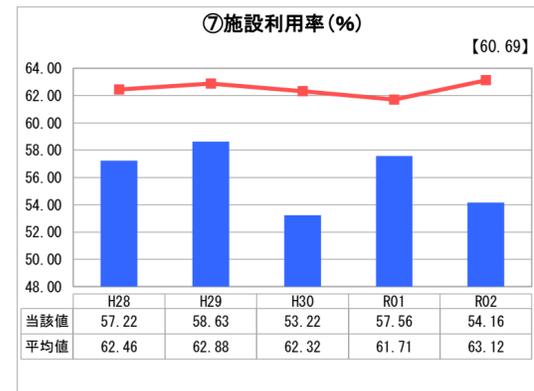
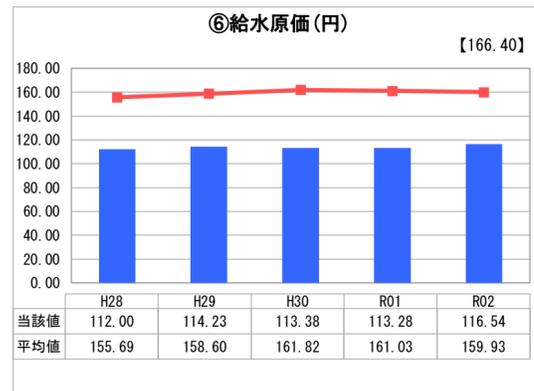
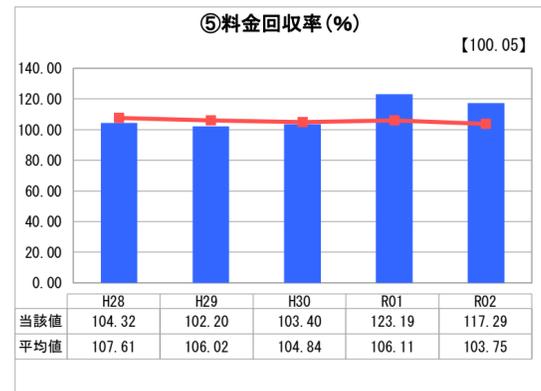
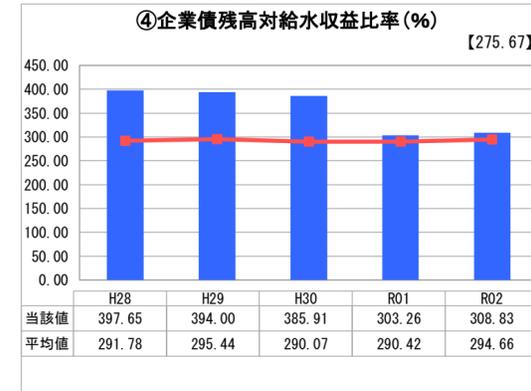
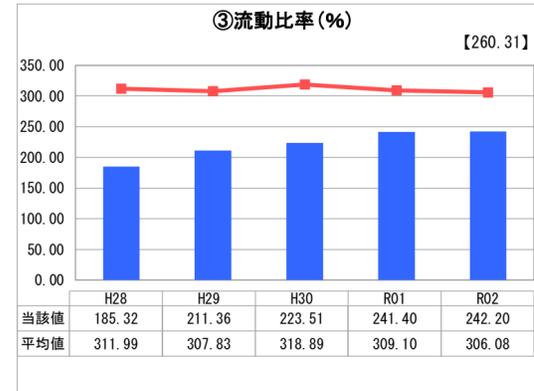
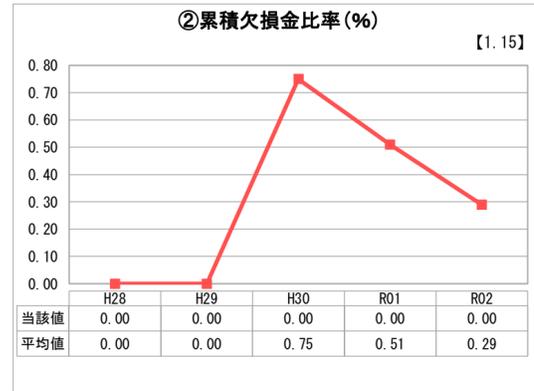
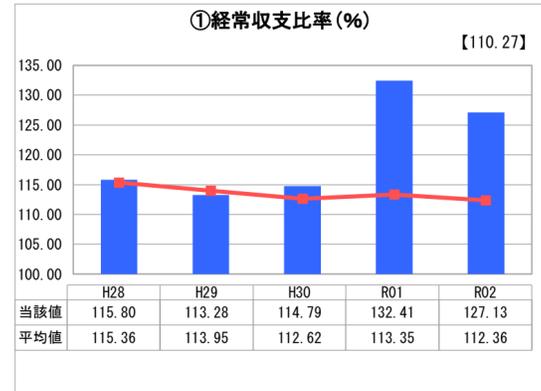
福井県 福井市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A2	自治体職員
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	65.57	98.04	2,255	

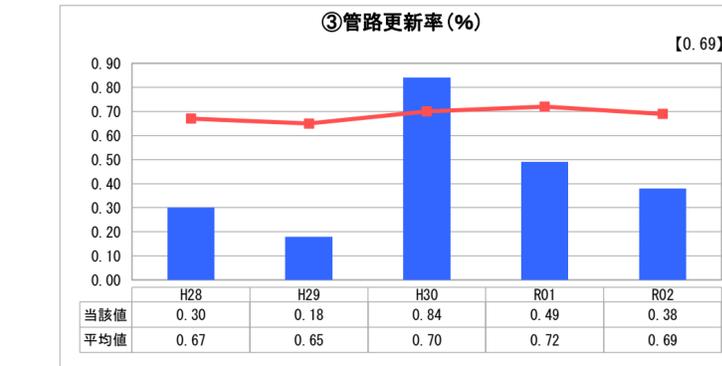
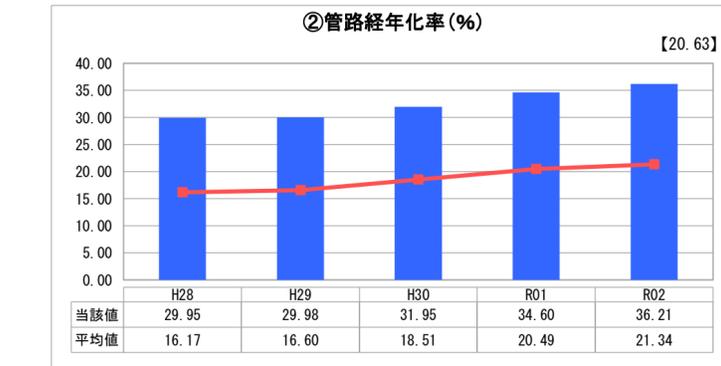
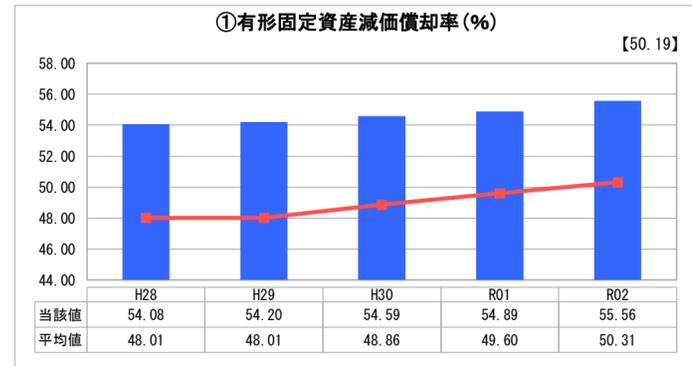
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
261,619	536.41	487.72
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
254,568	263.10	967.57

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	令和2年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

① 経常収支比率及び③流動比率、⑤料金回収率については100%を上回る水準を、②累積欠損金比率については0%を維持しており、これまで健全な経営を行っている。
 ④企業債残高対給水収益比率は、給水収益の減少により悪化したものの、企業債残高は着実に減少している。
 ⑥給水原価は類似団体平均を下回り、有収水量1m³あたりの費用は低く抑えられている。
 ⑦施設利用率は類似団体平均に比べて低く、今後も人口減少に伴い低下が見込まれるため、施設の統廃合やダウンサイジングを検討していく。
 ⑧有収率は前年度より0.4%ほど改善したのは、漏水調査を積極的に実施したためである。今後も漏水箇所の特定と管の修繕等を行い、改善に努めていく。

2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率は類似団体平均を上回り、有形固定資産のうち償却対象資産の減価償却が徐々に進んでいる。
 ②管路経年率は類似団体平均を上回り、法定耐用年数を経過した管路を多く保有している状況ではあるが、着実かつ計画的に更新を進めている。
 ③管路更新率は類似団体平均を下回っている。本市の管路延長は2,000km以上あるため、更新率の飛躍的な改善は難しいが、今後も管路の重要度や優先度を判断し、計画的な更新を続けていく。

全体総括

水道事業の経営状況は、新型コロナウイルス感染症の影響による減少要因はあったものの、令和2年度の給水収益は、前年度の12カ月分とほぼ同程度になった。しかし、今後も、老朽化した施設の更新や耐震化に多額の財源が必要になることから、ますます厳しさを増していくと考えられる。
 このような経営状況にあっても、市民生活や経済活動に欠かせない重要なライフラインとして、継続してサービス向上に努め、激甚化・頻発化する自然災害に備えるため、防災、減災に対する取組の強化を福井市水道事業ビジョン2020に基づき着実に実施していく。